

2021年度(令和3年度)

自己評価報告書

**学校法人 東北外語学園
東北外語観光専門学校**

■2021年度（令和3年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2021年（令和3年）4月1日 ～ 2022年（令和4年）3月31日

2. 実施方法

- (1) 実施時期：2022年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載して公表

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

評価項目の達成および取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 「欧米等の語学に関する専門教育を施し、高度な語学力と豊かな国際感覚を養うとともに、あわせて一般教養の向上をはかり社会の発展に寄与する有為な人材の養成をはかる」(学則)ことを目的として、各専門分野の特性が定められており、その特性はパンフレット等で明確にされている。めまぐるしく変化していく社会に柔軟に対応することができる職業人を育てるために、能動的学習能力、自分で考える力、豊かな想像力を高めるような指導を目指していきたい。
- ② 国際化社会に対応できる人財を養成するため、どの学科にも共通する特色は、外国語科目を必修とし、語学力の継続的向上を可能とするカリキュラム編成を行っていることである。また、すぐれた職業人になるために必要とされる様々な素養を身につけられるように、キャリアガイダンス関連の授業を全学科で開講している。
- ③ ユニバーサル型学科と位置付ける「ビジネスデザイン科」を令和2年度開設し、また、同じコンセプトに基づいて、令和4年度には「国際コミュニケーション科」を新設した。これらの学科は、より多くの人に対して専門学校への門戸を開放することを目的としており、自立進学も可能となるように、学費を設定し納入方法について改善を図った。今後も時代の要請に応えられる学科編成を構築していく。
- ④ ホームページ、学校紹介パンフレット等を利用して、できるだけ多くの人に学校の理念・目的・育成人財像などをわかりやすく伝えられるように努めている。また、オープンキャンパス、入学相談会などの機会に、本校職員、在校生の話を直接聞いてもらう機会を多く設けることによって、学生・保護者等に本校の特色をよりよく知ってもらうようにしている。
- ⑤ 社会情勢、業界のニーズの変化にたえず注意を払いながら、学科等の編成はもちろん、各学科のカリキュラムについても検討を重ねながら、改善を図っていく。

(2).学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1

③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。事業計画及び運営方針は、学校法人の全職員を対象として会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。
- ④ 現在の学校運営の状況に対応するため規程の整備を行った。特に年休制度については「学園年休」「疾病休暇」の制度を独自で整備し、急な休みにも対応できるよう配慮している。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効かつ効率的に運営されている。各部門ごとに、校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ、適切に対処している。また随時専門家等に相談し、学校法人として基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 前年度に引き続きコロナの影響でオンライン授業や職員の業務打合せを行う時はWEB会議システム(ZoomやGoogle Meet)を使用し、授業は中止することなく規定の回数実施でき、打合せは滞りなく行うことができた。

(3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
②	教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1

⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
⑪	人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	3	②	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 方針は策定されているがホームページで教育理念がわかりやすく表示されているとよい。
- ② 各科毎に必要な知識・目標の到達時期の学修時間を確保しているが、共通科目の時間が科により異なるため、さらに柔軟に対応できる時間を確保したい。
- ③ 毎年、体系的なカリキュラムになるように改善している。
- ④ 実技を通して実践的な授業を実施、職業意識をもたせるカリキュラム編成としている。
- ⑤ 各学科で各関連分野での企業との連携、実習等を企画・実施している。
- ⑥ 特定の科目と専攻では実習を行っているが、科によって偏りがあるのでどの科も平均的になるよう改善したい。実技や実習の機会を増やし実践的な能力を養うことで進路選択の幅を広げたい。
- ⑦ 全科目で授業アンケートを実施し、担当講師にも結果をフィードバックしている。
- ⑧ 学校関係者評価委員会などで学校評価を行っている。
- ⑨ 判定基準は明確であり、学生への周知も徹底している。
- ⑩ 取得目標資格、検定の合格率や取得者人数増加に結び付くよう、学年学科毎にカリキュラム作成をしている。また保持級やスコア毎に合わせたクラスを設定し学生一人ひとりの習熟度にあった環境を整えているが、さらなる意識づけがあると良い。
- ⑪ 非常勤講師も含め各業界の経験者などで業界の専門知識を備えた教員による授業を行っている。
- ⑫ 一部連携企業より講師を派遣してもらい、現状の業界の知識、実際の現場の知識を習得できるカリキュラムを組んでいる。今後はさらに企業との連携を深めたい。
- ⑬ 知識や技術などを習得するための研修を受講できる機会は少ないので、今後学内外の研修に積極的に参加したい。
- ⑭ 学内の若手勉強会など月2回開催しており、また外部の研修会にも参加している。

(4).学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
③	退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① コロナなどの影響により、求人数が著しく減少し厳しい状況であったが、就職率約90%を達成することができた。
- ② 学年毎に推奨資格を明確にし、合格率アップへつなげたい。
- ③ 退学者は、前年度と比較して増加した。学校生活に馴染めない学生は、保護者との連携を密に取っていく。入学前から精神疾患を抱えている学生に対しては、臨床心理士からの指導や勉強会で対処法を学ぶ機会を増やし対応する。
- ④ 限定的であるが企業の担当者または本人からの報告により一部の卒業生については把握できている。今後企業ごとの卒業生の状況を作成し、毎年更新していきたい。
- ⑤ 卒業生が来校した際、卒業生の意見をヒアリングし教育活動の改善に活用している。今後は全体としてのシステムとして整えていきたい。卒業後のキャリア形成への効果の把握や教育活動の改善のための取り組みが課題である。

(5).学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

⑧	卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 担任が就職、進学指導の窓口となり、講師とともに自己分析、履歴書作成指導、模擬面接指導を行っている。また進路指導室では求人情報の取りまとめと学内企業説明会、学内就職セミナーを行っている。
- ② 担任制を採用し、定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活面での相談に応じている。なお担任では対応が難しい精神的な問題については、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し担任と連携して相談にのっている。
- ③ 高等教育の修学支援新制度の更新申請を行い、対象校として経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援をしていきたいと考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。さらに低学費の学科設置により、経済的理由で「学びたいをあきらめさせない」学習環境を提供していく。
- ④ 毎年定期的に学生の健康診断を行っている。保健室も常備し、カウンセラーも配置して精神面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 希望の学生を対象に定期的に行っている放課後のオフィスアワーやゼミなどを支援している。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えている。また体調不調や悩みによる不登校生の保護者には、担任が報告や指導をお願いし改善に向け連携を行っている。
- ⑧ 卒業後も就職相談に対応している。また希望するコロナにより同窓会総会の実施を縮小せざるをえなかった。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた学科として「1年専科」を開設し、社会人経験者がまず1年間勉強し、継続して学習を続けたい場合は2年次に転入できるなどの制度を設けている。
- ⑩ コロナ禍における高校生へのキャリア教育推進のため職業理解の模擬授業をはじめ、各種ガイダンス等へ参加は減少したが、オンラインでの実施を行った。

(6).教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	4	③	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 新型コロナウイルス感染症対策として今後の授業運営のあり方を見直し、R3年度より必携PC制度の導入を決定した。それに伴い本館5階、8階のフロアにWi-Fi環境を整備し、ネットワークを使用した授業ができる教室を増加させている。併せてプロジェクターも設置し、ICTを活用した授業を展開することで教育効果があげられるように努めていきたい。必携PCの導入により学生一人一人パソコンを配布したが、接続不具合などの問題が多発し点検等を行っている。ITトラブル対応チームのスキルアップが今後の課題である。
- ② 学内の実習室で実践的な教育を行っているが、各学科の校外でのインターンシップや企業実習はコロナの影響で中止または延期を余儀なくされた。
- ③ 大規模の地震を想定した避難マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行うようにしている。内容は災害対策本部の設置、避難経路及び誘導手順の確認、校舎の自衛防衛組織の体制作り等である。特に本校では留学生が多いのでいかに留学生を迅速に誘導できるかが課題である。

(7).学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 本校では来校型のイベントに加え、オンラインでの個別説明会を毎月定期的に開催し、本校の特長、学科概要、カリキュラム等をしっかり伝えることで入学後のミスマッチが生じないように、工夫して開催している。どの職員が説明しても偏った説明にならないように、職員一同意思疎通を図るように心掛けている。個別相談の時間では、一人ひとりの希望に合ったアドバイスをを行い、他校とも比較した上で進路を決めてもらうように説明をしている。
- ② 教育成果ついて、「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じて伝えており、イベントの時期、参加人数によって、分かりやすく伝えるよう工夫を行った。また今年度はSNSのアカウントを作成し、学校のイベント、教育成果(実習研修、資格取得、就職、進路実績)や、学校の雰囲気や、学校の雰囲気が伝わるように投稿内容を学生スタッフにも協力してもらいながら運営を行った。今後も入学を検討している学生に本校のことをより分かりやすく伝えるような工夫と迅速な情報更新を心掛けていきたい。
- ③ 修学支援新制度の趣旨を踏まえ、本校に入学を希望する学生が、経済的な理由で進学をあきらめることがないようにするため、年間授業料が45万円・分納制で自立進学を可能とする「ユニバーサル型のビジネスデザイン科と国際コミュニケーション科」を設置した。国際コミュニケーション科は初年度ではあったがほぼ定員数の学生の募集ができた。今後ますます増加傾向にあることを実感している。特に一人暮らしが伴う宮城県外からの生徒に一定の評価があったと考えている。R4年度は新型コロナウイルス感染症の影響でさらに家計急変者の増加も見込まれることから、「学びたいをあきらめさせない学納金」を確立させ、進学希望者の必要性に応じていきたい。

(8).財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1

④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1
---	--------------------	---	---	---	---

■状況、課題、改善策について

- ① 当年度決算において学園全体の経常収支差額は黒字となった。経営は順調に推移している。
- ② 毎年度の予算と収支計画については法人本部、各学校で編成・審議を行い、前年度末の理事会に諮ることとなっている。理事会での決定事項に従い適正に実行している。
- ③ 会計監査は関連法規により監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページで公開している。

(9).法令等の遵守

評価項目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準を遵守し運営を適正に行っている。
- ② 個人情報保護に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 昨年に引き続き自己評価委員会により自己評価を行い、その後の学校関係者評価まで実施している。その際に問題点について検討している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行っている。

(10).社会貢献・地域貢献

評価項目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 各種検定や大学入学試験の地方会場としての試験会場として提供した。
- ② 定期的に学生ボランティア活動の案内を出し、希望者を募っているが、コロナ禍による実施の見送りがあった。

- ③ 現在、コロナなどの影響もあり外部の講座や教育訓練の受け入れは行っていない。

(11).国際交流

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているのか	④	3	2	1
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 海外への学生の派遣は、希望者はいたが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、実施できなかった。
受け入れについては、4月10月の入学時期に合わせて募集活動を行い、各国からバランスよく留学生が入学できるよう工夫をしている。令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、いつ入国できるかの見通しが大変立ちにくい状況であったため、日本国内の感染状況を各国の関連機関等に正確に伝えることに努めた。一方、各国の感染の状況・ワクチン接種状況をつかみにくく、苦労した。11月頃、入国が可能になりかけたが、結局一人も入国できなかった。
今後も新型コロナウイルス感染症の影響は残ることから、日頃からの各国関係機関との連携強化に努めたい。
- ② 待機している留学生の入国に関連する新規の手続きにあたっては、文部科学省、厚生労働省が実施するオンライン説明会等に必ず複数の職員で参加し、正確な情報の把握に努めた。
日本語科の学生の在籍状況に変更があった場合、また出席率が報告義務が生じる程度まで下がった場合は、入管等への報告を確実に行った。
政府の水際対策が変更になることに伴う2月3月の手続きへも、各国関係機関と協力しながら、大きな問題なく対応することができた。
- ③ 今年度は、日本に来たばかりの留学生は在籍していなかったことから、日常の生活指導については大きな問題はなかった。在籍学生に対しては、定期的に面談を実施し、学修状況の把握、個人的な状況の把握に努めた。特に、日本語科の学生の次の進路についての指導には、多くの時間を割いて指導を行った。
新型コロナウイルス感染症の影響により、母国の家族の経済状況の悪化したことで、学業が続けられない学生が多く出たことは大変残念だった。次年度も、経費支弁者の経済状況の悪化は避けられないことから、学費納入の見通し等について、事前に学生とのやりとりを強化し、対応ができるようにしていきたい。
また、感染の広がりには校内では、今のところ見られなかった。今後への対策として、オンライン授業対応、少人数での授業などの可能性が常にあることから、校内Wifi体制の強化もはかっていきたい。
- ④ 令和2年度と比較して、令和3年度は、国際交流センターでの行事や日常を、個人情報取り扱いには留意しながら、SNSを通して発信することを重点的に行った。国内外にいる卒業生や、各国の関係機関からの反応も見られた。
令和4年度も、この取り組みは推進していきたい。